

# ゆく水の家

## 椛田ちひろ

### ——要旨

2022年4月29日より11月13日まで、その間のべ145日間、新潟県十日町市・津南町地域にて開催される国際芸術祭「越後妻有 大地の芸術祭 2022」に作品参加した。この芸術祭は、対象となる地域の空き家や野外などを会場に作家を招聘、または作品公募などを行い、土地にリサーチされた作品が展開されるものである。3年ごとに開催されるトリエンナーレ形式をとっているが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、今回は1年遅れで開催された。

世界有数の豪雪地帯であるこの地域を視察で訪れた2021年の4月、あてまがわ当間川と市ノ沢というふたつの流れに挟まれた市ノ沢集落は、雪解けの川が泥で濁り轟々と叫ぶような音が響いていた。この市ノ沢集落にある空き家が作品会場となった。

集落の人々と共に実現させた作品《ゆく水の家》は、集落を旅人の視点で捉えた、「市ノ沢集落の小さなモデル」である。

### リサーチワーク

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により現地でのフィールドワークが困難だったため、初期のリサーチはウェブから得られるものを頼りとしたところが大きくならざるを得



図1 市ノ沢周辺

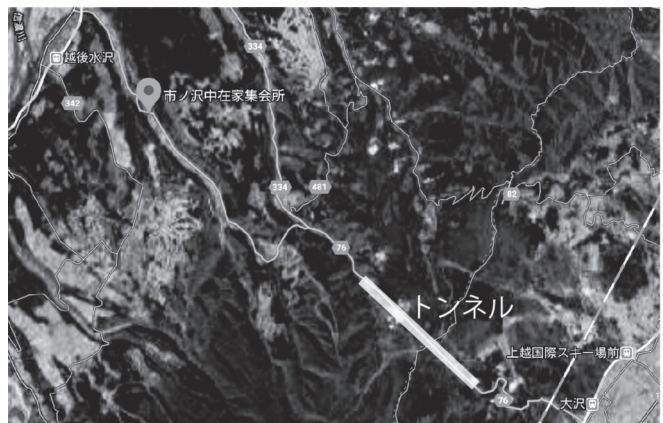


図2 新道に続く大沢トンネル

なかった。GoogleMap などから得られる情報は少なく、しかし地形や道路といったシンプルな情報が人の流通の歴史に目を向けさせ、そこから作品の着想を得ることになった。

市ノ沢集落周辺を GoogleMap で見てみると (図 1)、地図上でまず目を引くのは当間川だ。この川は信濃川へ入り、遠く日本海へと流れ込む。そして、川に沿うように大きくまっすぐな新道 (十日町当間塩沢線) が走り、その間を旧道と思われる細い道が血管のようにならねている。川に沿った大きな新道は近年できたと思われるトンネル (図 2) に続いており、この新道とトンネルのおかげで越後湯沢から大した時間もかからず集落、そして十日町へ移動することができる。この新道によって人の流通が大きく変わったことだろうと想像する。

実際に土地を訪れた際に GoogleMap で見た道を走り川を眺めるが、地図で確認した風景とは違うギャップがいつもそこに存在する。このギャップはおそらくこの土地に住まない限り埋められることはないだろう。この旅人のような違和感を作品の視点に据えることにした。

市ノ沢集落を挟む川と集落を囲む山々を舞台に、旅人が集落を訪れ、発見する物語というフレームを設定した。

## 作品内容

“不慮にも市ノ沢辺に春のきて錦を曝す谷川の水”



図 3 社に掛けられた短歌

集落には社があり、歌が書かれた短冊が大切に掛けられている (図 3)。詠み人の名前はないが、集落の誰かだろうということだった。

春の雪解け水に、秋の葉が流されてきたという素朴な歌だ。上の句に春、下の句に秋というふたつの時間が一首の歌の中に詠まれている。

会場となる空き家の上階と下階を上上の句と下句に見立て、上階に白い冬の山々を、下階に黒い春の雪解けの川の流れを構成し、一軒の家の中に空間的、時間的拮据りを持たせた。

空き家に残置された建具等を使い空間を構成し、視察で計測した数値をもとに、エスキースを作成した (図 4・5)。

下階会場においては、建具には春の雪解けの流れを描いた障子紙を貼り、裏からの灯りで照らし、流れの中に佇む行燈のように配置した。

光の設計は鈴木泰人氏に依頼し、光のプログラムは春会期（巻頭カラー3ページ）と夏会期（巻頭カラー2ページ）とで時間感覚が外界と対比的になるように変更している。

観客は栈橋に立って黒い川のの流れを見る。足元には濁流のように泡立つ加工を施した波板を配置した（図6）。この波板は会場となった空き家の雪囲いから着想を得ている。

上階は夏会期から公開された。光を落とした暗い下階から上がり、切り取られた壁を覗き込むと一転して明るい空間が広がる（巻頭カラー4ページ）。透明なメディウムで描き出した山の連なりを見下ろすことになる。山々の間には、集落に見立てた石を配置し、観客はちょうど集落を見下ろしているポジションになる（巻頭カラー1ページ）。集落近くの河原で拾った石と、集落の方が所有している石をお借りした。

作品が、その土地についての覗き穴のような役割を担えたら嬉しい。



図4 初期エスキース1

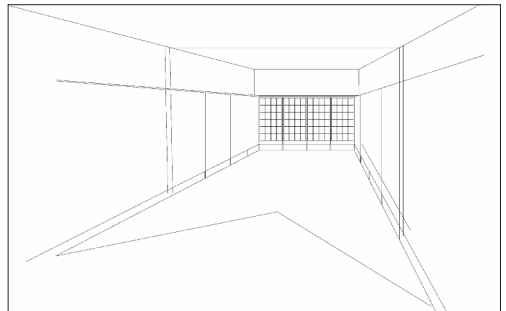


図5 初期エスキース2

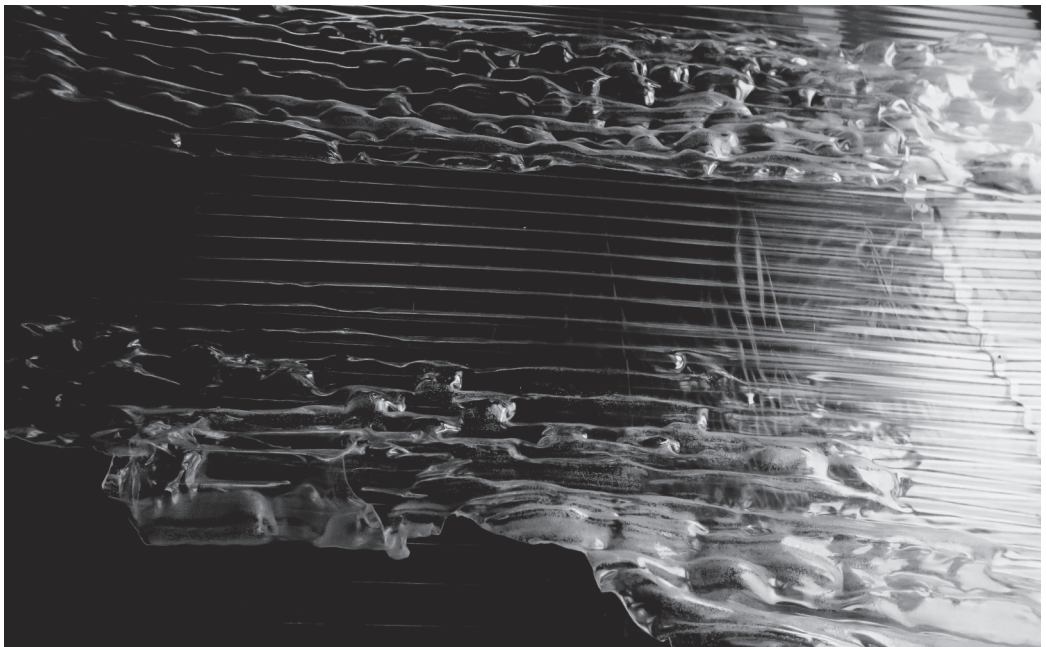


図6 《ゆく水の家》1階の波板部分

## 市ノ沢集落の方に教えていただいた方言講座

【いちんそ】市ノ沢

【しょ】人々、方々、衆

(「いちんそのしょ」は「市ノ沢の方々」の意で使用される)

【だんだんどーも】いつもお世話になっております

【はちゃ】また今度、バイバイ

(友人間なら「はちゃ」。「はちゃねー」のように「ねー」を付けると敬語となる)

【はらくっちえ〜】お腹いっぱい

【あっさあーさ】失敗したあ〜、ミスしたあ〜

【しょーしー】恥ずかしい

【だっけそ!】ほんとだねー、だからねー



図7 ゼミ合宿で市ノ沢集落を訪れた。集落・こへび隊大地の芸術祭運営の方々とゼミメンバーで、《ゆく水の家》前にて(2022年10月8日撮影)。